イームズと日本

チャールズ＆レイは日本の郷土玩具や茶会などに関心をもち、イームズハウスでの暮らしに取り入れていました。また日本からも多くの文化人がイームズ夫妻を訪ね、太平洋を越えた交流が生まれました。

01

剣持 勇
（1912-1971）

52年にイームズハウスを訪れ「近代の桂パレス」と評した。チャールズと共感する所が多く、剣持いわく「ブロークン・イングリッシュでも全然会話に不自由ありません」。

02

濱田庄司
（1894-1978）

イームズについて「仕事に対する志の高さと、健やかな独立精神には見上げる思いがした」と語る。52年以降何度か夫婦を訪ね、チャールズから直接入手したラウンジチェアを愛用していた。

03

猪熊弦一郎
（1902-1993）

ノグチを介してイームズと知合い、長年夫婦で親しくした。チャールズはN.Y.の猪熊宅で「サクランボの軸結び」に夢中になって飛行機を逃したことも。レイは78年の来日時に東京の猪熊宅を訪れ、食卓や部屋に吊るされた毛筆などカメラに収めている。

04

イサム・ノグチ
（1904-1988）

47年からハーマンミラー社のデザイン顧問としてイームズ夫妻とともに活躍。猪熊や剣持をイームズ夫妻に紹介し、日本のデザイナー達との懸け橋となった。

05

山口淑子
（1920-2014）

同年結婚するノグチと、51年の茶会に参加。同じくゲストであったチャップリンとも親交がある。後年レイが一人で来日した際に送ったメッセージカードが残っている。

© 2019 Eames Office, LLC 06

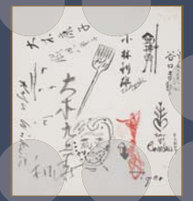
齊藤寅郎
（1902-1968）

建築家、ジャーナリスト。早稲田大学建築学科を卒業後、朝日新聞社にて『航空朝日』『This is Japan』等の編集に携わる。住宅作品として「島田邸」(1935)など。57年に日本でイームズと会い、62年にイームズハウスを訪問。

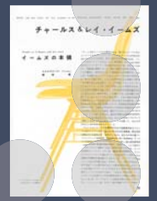
1951年、イームズハウスで開かれた茶会

写真左から：
イサム・ノグチ（彫刻家）/レイ・イームズ/山口淑子（俳優）/松本宗静（茶人）/チャーリー・チャップリン（俳優）/ヘンリエッタ・レダーボム/アイリス・ツリー（詩人）/ベティ・ハーフォード（俳優）/クリスチャン・レダーボム/フォード・レイニー（俳優）

撮影：チャールズ・イームズ



左 剣持勇からイームズ夫妻へ送られた花札（複製）/1961 [12]
中 イームズ夫妻と剣持、齊藤、谷口吉郎、脇田和らによる寄せ書き/1960c. [13]
右 剣持勇から送られた包み/1950s [14]



工芸ニュース

商工省工芸指導所（52年より産業工芸試験所）機関紙。多くのデザイナーがイームズに関する記事を寄せた。交流や製品研究などの報告から、同時代を生きた彼らがイームズから熱心に吸収していたことがうかがえる。

剣持勇「イームズの本領」
工芸ニュース第29巻5号
1961 [15]

16

プラスチック・アームチェア

チャールズ&レイ・イームズ
デザイン：1948
製造：1950~
剣持デザイン研究所所蔵

イサム・ノグチが剣持の協力のもと制作した竹製椅子をきっかけに、軽くて小ぶりな椅子の参考として届けられたもの。10分足らずで組み立てられ、軽量で丈夫なプラスチック製の椅子に感動した様子が「贈られたイームズチェアについて」（工芸ニュース第20巻3号,1952）に記されている。その中で、剣持は表面の質感を「和紙の一種を見るようだ」「深みと落着のある気品の高い（略）近代的な効果のあふれたもの」と評価した。

17

プラスチック・アームチェア

チャールズ&レイ・イームズ
デザイン：1948
製造：1950~
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館所蔵

剣持のアームチェアと同時に猪熊弦一郎のもとへ届けられたもので、こちらは揺り椅子になっている。猪熊のアトリエで長年に渡り愛用された。1984年『画家のおもちゃ箱』で、この椅子について「菫(すみれ)色の（原文ママ）シェルチェアーは、日本に最初に届いたチャールズ・イームズのロッキングチェアーである。亡くなった剣持君と僕のところに、終戦直後イサム・ノグチから贈られてきたものである」と紹介している。

07

千 宗興
（1923-）

1951年にイームズハウスを訪問。写真は右から千宗興（後の茶道裏千家第15代家元千宗室、現千玄室）、レイ、アメリカで茶道を広めたハワイ出身の茶人松本宗静とエドワード松本。

08

51年に行われた茶会は吹き抜けになったリビングを利用し、ロー・テーブル・ロッド・ベースが膳のように並べられていた。

09

イームズ夫妻は57年に、レイ個人では61年と78年に来日。レイは滞日時に脇田和（画家）や石井好子（歌手）とも交流している。

上 イームズ夫妻の収集した達磨

右 猪熊宅の毛筆（レイ撮影）

10

11

高見山大五郎
（1944-）

72年、かつてオフィスに勤めた佐々木美代子の案内で、この年外国人力士初の関脇となる高見山が訪問。イームズ夫妻は、床山が彼の髪を結う様子を「スモウ・レスラー」というフィルムに収めた。